

町史編さんだより

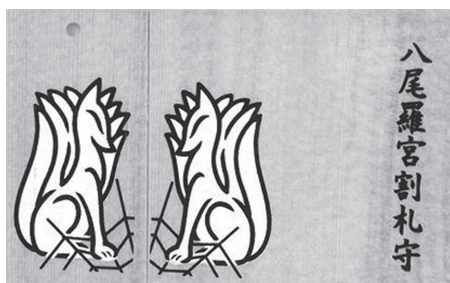
第12回

『信連と山岳宗教に親和性』 ～狐の恩やヤツテイ伝承～

「町史編さんだより」の12回目は、長谷部信連と山岳信仰の関係性についてお送りします。



▲木像のヤツテイサン（祠の下）も公開されたお齋祭り＝真庭市落合町上河内の熊野神社



▲八尾羅宮の割札守に描かれた八つの尾を持つ霊狐＝倉敷市の熊野神社

山伏（修験者）に身をやつした平家の落武者が下榎の表家に滞在中、トラブを起こして殺害され、所持品に摩利支天像があったことから祟りを案じてまつたとされます。また興味深いの

（頼田直真Ⅱ歴史・民俗・文化小委員長）

昭和45年出版の『日野町誌』で伝説の章を開くと、「下榎の摩利支天」「板井原のヤツテイさん」の話が載っています。いずれも狐そっくりの想像的動物を「神の使い」「ヤツテイサン（またはヤツテンサン）」と呼び、それらしき鳴き声が響けば大火災など不幸の前兆だと解釈する言い伝えが一期期あつたようです。

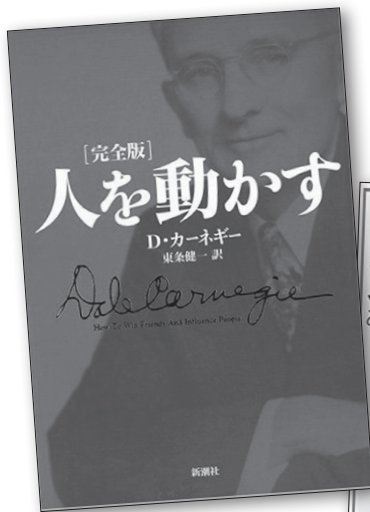
しかし没後に崇り神として恐れられた菅原道真をまつる天神様が今では「学問の神様」とされるように、下榎2区の摩利支天神社も特に戦時中は戦勝の神として近郷から広く信仰を集めたと聞きます。「禍を転じて福と為す」というのは東洋の伝統的な思想なのでしょうか。

お齋祭りは「当屋祭り」とも称し、莊園時代からの名田を所有する資格者（名主）が公領分、地下分それぞれ持ち回り、自分の家まつつていたお齋様の小さな祠を次年の当屋に渡します。美作国だった岡山県北部には同様の素朴な民俗が追付神社、伊都岐神社の字をあてて点在する一方、倉敷市にある日本第一大霊験根本熊野神社では「八尾羅宮」という社殿に八つの尾を持つ白い霊狐が鎮座。児島が島だつたころからの聖地で、役行者の冤罪事件を機に弟子らが紀州本宮を疎開させて修験道の拠点となりました。

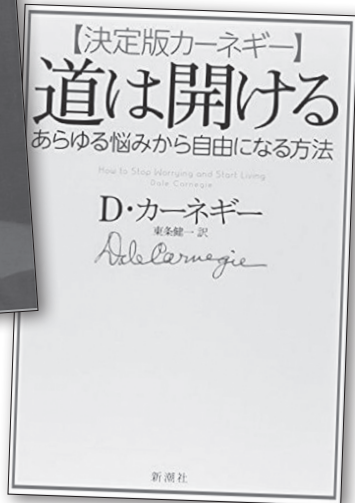
信連記が物語る神霊伝説
実は「下榎の摩利支天」の逸話は平家打倒を叫ぶ以仁王の乱（治承4年1180）に絡んで日野郡に流刑となつた長谷部信連が、金持付近から移住する寿永年間のことようです。宗教史の専門家によれば、山岳信仰に基づいて成立した社寺は美作地方に密集し、霊峰大山の方角は「奥」として神聖視されてきました。平家敗走とともに山陽路へ進出したとみられる信連一統の再起は、平安末期のこうした宗教、社会環境と無縁ではなく、さらに探究していく考えです。

読んでみたらんかな～

『私の本棚から』 副町長 山口 秀樹



▲『人を動かす』
D・カーネギー 著 /
東条健一 訳 /
新潮社



▼『道は開ける』
D・カーネギー 著 /
東条健一 訳 /
新潮社



▲『ゴールデン
ランバー』
伊坂幸太郎 著 /
新潮社



▼『アイネクライネ
ナハトムジーク』
伊坂幸太郎 著 /
幻冬舎

人を動かす立場になって
出会った2冊。
常に座右に置きたい書に

本はいろいろ読みますが、初めに日々の仕事や生きる知恵が身につく先人の書から。自分を高めるための啓発本は書店に山積みですが、私はこのカーネギーの2冊です。

「人を動かす」は、どうすれば良好な関係を築けるか、人間関係の極意が語られます。自分は有用な存在でありたいと誰もが望んでいます。だから相手の間違いをすぐに指摘したり否定

することは避け、常に相手の立場に立つこと。相手を尊重しまずは褒めることが成功への第一歩と説きます。営業マンから興行主、大統領までさまざまなエピソードを例に、相手に同意させる方法、相手の考えを変える方法などが記されています。

本書の通りすぐにはうまくいかないかも知れませんが、自分の行動を見直し実践してみることです。この本はためになりますよ。

「道は開ける」は、仕事や人間関係で心の不安や悩みを克服するための処方せんが集められています。不安

や悩みの大半は、変えられない現実を無理に変えようとあがくことで永遠に増殖する。自分で変えられないことは冷静に受け入れ、自分が変えることができるものにはチャンスを見つけようと説きます。そう、人事や上司に自然現象などでも自分が決められないことであれこれ悩んでも仕方がないのですから。今できることだけを考え集中することが大事なのだと思います。

初めて組織を動かす立場になり何かと悩んでいたころにこの2冊に出会いました。その後も壁に当たった時などに読み返していま

す。半世紀以上も読み継がれる名著は、最近新訳が出版されずいぶん読みやすくなりました。常に座右に置きたい書です。

伏線が散りばめられたストーリー展開。純粋に楽しめる伊坂作品

次は、純粋に楽しめるという意味で伊坂幸太郎です。登場人物は愛すべきキャラで文章はテンポよく読んでいて実に心地いい。

「ゴールデンランバー」は、息つく暇のない展開にどんでん返し、絶妙な伏線で一気に読ませます。首相

暗殺の濡れ衣を着せられた主人公は友人たちの助けを借りて巨大な陰謀から逃げる、逃げる。久々に戻った町で元恋人とすれ違い：ラストには思わず笑みがこぼれました。

「アイネクライネナハトムジーク」は、登場人物が次々に絡み合う短編集です。伊坂作品には殺し屋、泥棒、死神がよく登場しますが、これはごく普通の男女の恋路ストーリー。ほのぼのとした読後感で生きていく喜びを感じるといって大げさですが、何かいいところがあろうという気になります。

副町長からのメッセージ

日野町に来て3年になります。地域のために日々奮闘中です。役場での出来事などをフェイスブックやツイッターで発信しています。よろしければご覧ください。また、皆さんの所へ出かけていきますので、いろいろとお話を聞かせてください。

